

# かていやく

昭和41年11月15日発行

題字・藤井得三郎氏

## アメリカの家庭薬

通産省アメリカボランタリー  
チエーン視察団

H.S.C.ボランタリー

秋葉 保次

アメリカの家庭薬の様子をみてきてくれないか、というお話をT氏から出発前に伺って、まあ、なんとかなるさ、と気軽に引き受けたものの結果は余りよくなくて、大した調査も出来ず、しおしお戻ってきましたが、とりあえず簡単な御報告をさせて頂きます。

アメリカで俗に呼ばれている、ヘルス・アンド・ビューティ・エイドを家庭薬と呼ぶことにはいささか異議があるかとも考えられますが、化粧品関係を外してしまえば、日本の家庭薬に相当するように思われます。然しここでは、一括してお話いたします。

全アメリカで小売される薬の殆ど半分はドラッグ・ストアやファーマシー経由で、この中には所謂、調剤用の治療薬も家庭薬も含まれます。

スーパー・マーケットを含む食料品店は三〇%ほどを扱い、その他の二〇%は煙草店、雑貨店、百貨店やキオスクのような所で扱われて、勿論調剤用治療薬は扱わずに家庭薬だけ扱います。

ここでお気付きのように、家庭薬は圧倒的に売られていることです。それを象徴するように製薬メーカーも家庭薬メーカーの方が大きい場合が多く、新薬部門を子会社として従えている例もよくみられます。(尚ここでは注射薬のような特殊治療薬を含んでおりません)

家庭薬を売っている場所は前述の通りですが、州によって少々異なりませんが、各種のお店で売っており、そのために日本より遙かに手軽に買えます。例えばバス・ターミナルや食料品店、雑貨品店などでさまざまな家庭薬を購入することが出来ました。商品名を挙げれば、ドリストン、アナヒスト、コンタック、タムス、ダイゲル、コランテル、シロップ、ドラマミン、スークレット、ベンゼドレックス、コルサイジンなど馴染のあるものが売られています。どうも小さな売店などでは小包装品を、スーパーやドラッグ・ストアでは大包装品を扱っているように思われま

した。アメリカ・バイエルの三〇〇錠入包装などが、大きな棚にダートと並んでいるのを度々みました。スーパーの二二%は家庭薬を扱っているといわれる程、商売柄からスーパーで薬が目につきました。ともかく家庭薬は何処でも買えます。ホテルのサンドリーでも、裏通りのグロッサーでも、郊外のスーパーでも何処でも買えます。あなたがちドラッグ・ストアに行く必要はありませんでした。

ビタミン剤、VC二五〇mgとかVB<sub>12</sub>二五mgとか弱い抗ヒ剤など予想外の製品が家庭薬の範疇に含まれておりました。前述の商品は全部そうですし、軽い鎮静剤などもありましたから、素人が使う程度ならば薬効上の種類が少くないことはあります。むしろ多過ぎるくらいです。私信携帯していた薬は一切使わず、グループの中で気分の悪い人達が出る度に、そこらで買って役立てました。それがそれで充分間に合いました。然し常識的に考えて治療薬と判定できるようなものは治療薬として扱われるのは勿論ですが、その接点は非常に微妙なようで、FIの基準からだけでは見当つきません。スーパーで、VB<sub>1</sub>一〇〇mg錠を売っていたか

らです。

小売価格は、SP（希望価格、日本の定価に相当）、FT（公正取引価格、日本の再販に相当）とありますが、価格維持はなかなか困難のようのでロスアンジェルス市内ではFT商品の代表的な例を五ヶ所で四通りの値段がついていました。カリフォルニア州では再販が強力と聞いて行つたのですが、非契約者約束条項の問題がからんでいるのかもしれない。カットレイト、ディスプレイの看板（ビラでなく）が目につきました。私は或る卸屋のメール・オーダー・ブックを入手したので御参考までに抜粋してみましょう。

ロスアンジェルスのレストラン向け卸商の家庭薬の部門です。

卸商の取扱い商品は非常に豊富です。というのはドラッグ・ストア向け卸商ならば、薬は勿論医療器械、衛生材料、化粧品、雑貨、食品、カ



食品、雑貨店での  
医薬品陳列棚

EPSOM SALTS			563
56212..	St. Joseph 12 1-lb. SP 19c	1.17	56'
56218..	Smart 12 5-lb. SP 49c	4.72	563
ALLERGY TABLETS			56
56230..	Allerest 6 24s SP 1.25	4.50	56
COLD RELIEF TABLETS			56
56240...	Super Anafat 12 12s FT 65c	5.44	56
56242..	Super Anafat 6 20s FT 98c	4.10	56
56246...	Contac 12 10s SP 1.49	13.88	56
56248...	Coricidin 12 75c 12's	5.65	563
56250..	Coricidin 12 1.19 25's	9.12	56
56251..	Dristan 12-Hour Capsules 12 1.49 10's	11.48	56
56252...	PB Bromo Quinine Tablets 12 16s FT 69c	5.73	56
56260...	PB 4-Way Tablets 12 15s FT 49c	3.82	56

メラ、時計からサンングラスまで揃えてあり、ドラッグ・ストアの商品が一切間に合うようになっていきます。食料品店向け卸でも同様で、食品、薬品、煙草、雑貨など一切を扱います。つまり業種別の卸になっているのが多く、勢力も強いようです。勿論、日本と同様の形態の卸商もあります。また例の変形委託販売屋ラック・ジョバーも大活躍で大きな力をもっております。アメリカ最大の売上げをもつ卸商はドラッグ・ストア向け卸のマッケンソン・ロビンズ社年商約8億ドルでメーカーよりも大きな売上げを誇っていますが、流通業者の方がメーカーより大きいのが、アメリカの特長といえそうです。その為か卸がプライベート・ブランドをもつ例が非常に多いようです。家庭薬の広告はすこぶる盛んです。TVでみたかぎりでは、日本ならば厚生省から一喝やられそうなの



ドラッグ・ストアの陳列棚

を、どんどんやって、たちまち消化したり、たちまち痛みが治つたり凄いい訴求力です。これは家庭薬だけで治療薬は大衆広告は不許可にしている州が殆んどです。

医療費の嵩むことは有名ですが、これが家庭薬の消費に関係のあることは間違いありません。治療薬と家庭薬の分離と、家庭薬を販売する業種の多いこと、社会習慣が違うことなどが家庭薬の売上げを支えているのではないのでしょうか。この様な点が日本との違いのようです。もともと日本の薬屋が普通に売っているのは、どれも家庭薬型の薬だぞ、といわれれば、それももつともな話で、そう考えれば彼我の差は、それほどないともいえましよう。

## ドイツの旅

理事長  
津村重舎

五月になってから急にドイツ行きを決めたのは、前々から試験をしてみた製品の打合せがスムーズに行かないので、直接会って話した方が早いと思つたからで、最初から手がけていた関係で私が行くことになった。

いつものことながら、会社を少し早めに終つて帰宅したのは四時ごろであつたかと思う。急いで下着類や趣味品をそろえ、写りもしない写真機なども小物鞆に入れ、りりしいいでたちとなって子供たちといっしょに食事をして家を出たのが出発二時間くらい前だつた。

羽田に着いて切符を見せ、シートナンバーをもらつて、いつでも出発できる態勢を整えたことになり、時間もあることなので近くのバーでビールにありついた。この時分から気

分は爽快となり、酔い心地もなかなかよろしい。何だかんだと冗談など言っているうちにアナウンスがあり通路から税関等の手続きを済ませてやれやれと休憩室にはいる。開放感でなかなかよい状態である。日航の北廻り便でアンカレッジを通りコペンハーゲンで乗り換えて、まだオフィス時間には早いニューデュッセルドルフに到着した。

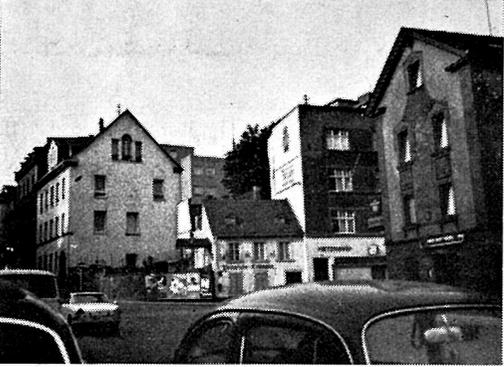
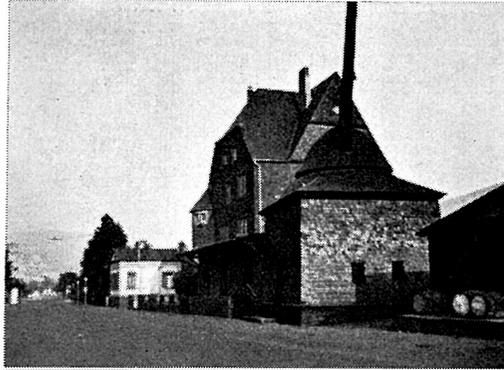
大勢の出迎えを受けたのだが、誰も顔を知らなかったので、前に会ったことのあるH氏に挨拶して車でホテルに向うことにした。西独でも有数な工業と商業の町だけに年々発展して町の様子が大きく変わっていくよ

うだ。古い建物を取り壊した跡に新建築がどんどん建っているのは欧州も日本と余り変わらないが、日本の建物のように辺りにかまわず自分だけよければと建てるのではないように、割合に周囲と調和しているように見受けられたが、勿論詳細に検討したわけではない。

展覧会場は例年のように市庁舎の裏にある歴史的な建物（かなり古くから国際的な展覧会場として知られている）で、中の様子は別に機会があれば詳述したいが、機械類の面白さは小生のような素人ではよくわからない。目的の機械展示場で通訳を通して話しをしてみたが、こっちの

考えと根本的に異なるので、話しを変えて別な面を検討してみた。最後の日に午後三時ごろから六時半ころまで、たどたどしい言葉のやりとりで目的をどうやら達した。終ってホッとして一人で夕食に出かけた。

前から見当をつけておいたホテルに入る。中は古風な造りでちょっとよろしい。何はともあれとビールをばい飲む。ビルゼナーだった。一ぱいのビールの美味かったこと。一人外国で食事をしている感じは少しもなくなったので、勇気を出して食堂にはいる。ちょうどシースンでもあるので、アスパラガスとラインワインを注文する。見渡すと一人もの



上 ビンゲンの酒倉庫  
中 ビンゲンのライン河  
下 この写真の横を曲ったところに酒場がありました

が二組ほどポソポソ食事をしている。中にはちょっと渋皮のむけたのを連れてくる老人もいる。その老人の笑い顔とジェスチャーは誰の目にも若いガールフレンドに最高のサービスをしているとわかるほどである。なかなかの見物だ。これをチラチラ眺めながら一人ゆっくり食事にかかる。ゆでたアスパラガスは日本では珍しいが、ドイツでは普通のご馳走である。まあ高級料理の方だろう。飲むほどによい気分である。

ちょうど到着して商社の責任者に会うつもりでいたが、会えないので昼食をとりに出掛けた時に次の便の予約をする積りで日航の支店に行った。明日は日曜だから誰かに案内を頼むのもどうかと迷いながら、見物したいと思つてライン下りを相談したところ、それならばビンゲという町から特急便で下るのが最もよいというドイツ人の注意もあつて、すぐ電話でホテルの予約をとつてくれた。バス付きの部屋はないとのことだが止むを得ず決めてもらう。どうも風呂から上つてゆつくりしないと落付かないのだが。

まずホテルに荷物を置きビンゲンに向う。ライン川沿いのよい道であるが、近頃は大分混雑するようで、

ラッシュアワーになると方々でつかえて三十分以上ののろろ運転のところがあるといふことだ。どこも同じ状態なのであろう。

H氏の運転で走りだしたが、行けども行けどもビンゲンに到着しない。地図の上ではほかに行きよのない川沿いの道なので心配はないが、はじめ上気嫌だった彼もだんだん無口になり、私ともうこの町を通ったと地図を見ながら説明して来た「イエス」というだけだ。彼の方から案内すると言っておきながら、余り時間がかかるので気嫌が悪い。土曜日なので奥さんと約束でもあったのかも知れない。また、私に遠いからと遠慮すると思つたのかも知れない。だが、ここまで来てしまつてはひき返すことは不可能だ。しかし余り気の毒になつたので、S・T・G・O・A・Rという町に来た時、お茶でも飲まないかと誘つたら、「ウンよい景色だとばかり車を止めて一軒のホテルに案内してバス付きの部屋はないかと聞いてくれた。バス付きはないがラインに面したよい部屋があるというので二階に上つて行つたら部屋がギンギシいつて隣室の声もよく聞こえるので断つた。どう行き違つたか、日航で予約してくれ

た所はだめだと断つてきたのとどつたが、ビンゲンはよい処だといふので行くことにした。どうもH氏のご気嫌がよくないが仕方がない。ままよと強硬にビンゲン行きを主張する。やがてスタートしたら何ともの十分も行つたらビンゲンの町である。静かな落付いた処だ。六時を過ぎてゐるし、もうバス付きの部屋がなくても泊らなければよくたつた。一番よい室にしてくれと、鉄道のそばの一軒のホテルに宿を決める。彼もようやくホッとした表情でニコリした。やれやれである。鉄道路線の向う側に細長い公園があり、その向うをライン川が流れてゐる。ライラックの原木が美しい花を付けてゐる。

荷物をおいて何よりもまず一ぱいである。彼もようやく杯をあげて半日の労をねぎらう。どんなお礼をしようかとキョロキョロしていたら、入口に名前を忘れたが箱入りのラインワインが三本ある。これを贈ることにした。彼も喜んで目を丸くしていた。しかし帰る車に乗つてから家に着くのが十一時ころだろうと洩らしてゐたので気の毒になつた。

さて一人になつたのでライン川のほとりに出てみる。風がひどい。薄

茶色の河岸にブドウ畑が急斜面に石垣の段々を作つてゐる。遠くにお城も見える。川幅も広く遊覧船も数隻つないである。ブラブラしてゐるうちに暗くなつたので町に引き返して行つたり来たりしてゐると駅の近くに出た。変つた建物があるので近寄るとどうも酒造りの倉庫らしい。木製の長い腕木が空に突き出した丸と角の組合せの建物である。

古い家並みを歩いていると一軒の酒場らしい所に出た。言葉もわからないがドアを押すと、町の人で一ぱいである。観光客は一人もいない。誰もテーブルをすすめてくれないので、ワインを一ぱい注文して立つたまま杯をあげる。皆楽しそうに飲んでゐる。仲間がいればよいのだがと東京の面々の顔が浮んでくる。口当りのよいラインワインのことなので、また一ぱいお代りをして金を払い店を出たが、静かな暗い町なのでどこへ行つたよいやらわからず、仕方なくホテルに向う。

大分入つてゐるなど気がついたがホテルに着いて食堂にはいり、また一ぱい。とうとう酔いも甚しくなりそのままテーブルで一寝入り。目が覚めた時は私一人がテーブルに寄りかかつて眠つてゐるだけだつた。驚

いて鍵をもらい部屋に向つた。羽田を出てから二晩目である。どうもよい気持ちになつて少々度を過ごしてしまつたようだ。それなのに今でもバーの中のステンドグラスからテーブルの配置までよく憶えているが不思議な気がする。いよいよ翌日はライン下りだが、又の稿とし度い。いつもふらふらやつてゐる訳ではないのですから念のため。

## ネパール人の生活

厚生省薬務局勤務

伊藤 和洋

筆者は厚生省薬務局厚生技官、現麻薬第一課課長補佐。コロンボ計画により昭和三十八年五月より四十年五月迄満二年間ネパールに滞在、日本人としては勿論、外国人として始めて秘境を探訪し、薬用植物調査のため、殆んど全土を踏破した。

ヒマラヤ登山隊員たちが書いた紀行文や単行本は勿論のことネパール

についてのテレビや映画は見逃がさないようにし、新聞や雑誌のつた記事や報道なども切抜いて整理したりして私なりのネパール・ヒマラヤについての知識なりイメージをもって、首都にあるカトマンズ空港に着いたのですが、ここからジープに乗って市街の中心地につくまでの三十分間で今までの私のイメージは全く変わってしまいました。というのは私がその時現実に見たのは、紺碧の空に調和した赤練瓦の建物や蟻洗のブラシ状をした真赤な花をぶら下げた金鳳樹や橙色の花穂をつけた羽衣の木や並木をはじめ、大きな菩提樹やベンガル菩提樹の下に憩う住民の姿が平和な田園都市という印象を深くしたからであろう。そこには、



上 ネパールの友人たちと筆者  
下 原住民の家族

秘境などという感じは少しもなかった。しかし数日後、農林大臣たちと昼食を共にすることになって、テールブルについたがナイフもホークもなく皿に山盛りされた御飯にタルカリ（野菜のカレー煮）と称するネパール人が好んで食べるものを掛けて右手で掻き混ぜながら、手掴みで口の中に放り込む動物的有様を見て聊か、未開国の片鱗を見たような気がしました。この国は今から十五年前に、百年余にわたるラナ家の独裁していた鎖国を破って、政治形態上一応は民主化されたのだし、その後も政変が激しくて、現国王が政権を掌握したのがやっと七年前ですから、このようなことは止むを得ないのだろう、と思われました。昭和の初めま

で夫が死ぬと妻は生きながら遺骸と一緒に焼かれるサティと呼ばれる習慣があったし、現在でも神様に捧げる生贄のため水牛、山羊、鶏などの頸を切って噴出する鮮血を周囲に振り掛けるようなことが毎日のように行われているのです。

ネパール人の社会構成のうえで最も特異で且つ私達にとって不可解なのはカースト（身分）制度です。この制度はこの国の国教であるヒンズー教の教義思想によるものといわれており、つまり人間の靈魂は不滅で、その人が前世で行なった行為（業・カルマ）によって現世の社会的身分や地位が決る、だから人間は生れながらに不平等なのが当然であり、ブラーミン（司祭階級）、クシャトリア（別名チュトリ！と呼ばれる王族士族階級）ヴァイシヤ（庶民）あるいは賤民に生れるのは全て輪廻によるといわれております。ネパールでは昭和三十八年八月から憲法によってカースト制度は廃止されているけれども、未だその意識は根強く残っており、一例をあげると、私が顧問として勤めていた政府の事務所や研究室で若い技術者と打合せや雑談することが度々あったが、そんな時、おとなしい若い技術者が突然大声で『オ

ーイ、ギリ、水を早く持って来い』と命じていたし、呼ばれた髭男のギリ小父さんは窮々如として恭しく水を運んでくるのを幾度も見ました。

ネパールの家は南部低地では草葺が多く、中央部では練瓦を泥で積みあげ、採光のため娑羅材表の窓枠を嵌込んでいるし、北部高地では石板を積み重ねて天床部に煙出しと採光のために穴をあけています。しかしこれも便所は屋内にも屋外にも造りません。その理由はヒンズー教の神様は、こういう不浄な場所を嫌うため、したがって用たしは野外ですが、夜分や早朝は道路や路地で行い、日屋は広場や人気がないのを見定めてから速かに終了し左手で拭いて、持参の小水壺から水を注いで洗うのです。壺を持っていない時は周囲の野草をむしって束ねたり、トウモロコシの芯や練瓦の破片を使うこともありますが紙は貴重であるから用いませぬ。だから、何処も彼処も異様な不潔な臭気が漂っている感じがするところがあり、例外としてラナ家と呼ばれる大名華族や富豪など外国人の訪問をうけるような家には薄暗い所に穴を掘ったトイレがあり水壺と水を満たしたバケツも置いてあります。なるほど、華族さんの家は違うんだ

なあと思っていました。ある日、某ラナ家を訪ねた時に大の髭男が何か手で掻出しては周囲に投げ散らしているの、何か雑草でも採っているのかと思つて近寄ると詰つた排泄物を掻きだしているところでした。聞いてみると半年に一度はこのように処理しなければならぬとのこと、下水工事が殆んどしてないのだから当り前だと思ひました。私がカトマンズに滞在中に、六人組の日本女性隊がやつて来てある富豪の家を借りて宿泊していましたが、秘境ネパールで水洗便所に入れるとは思ひなかつたと感激しながら話してしました。しかし、私はそれを聞きながら、水と共に流れ出した排泄物が移動して、水分が地中に吸収されたのち固型物は溜り溜つて彼女方が帰国後にはどうなることか想像しながらラナ家のできごとを思い浮べていました。尾籠な話ばかりになつて恐縮ですが思い出した序でに附加えさせて頂きますと、西ネパールの奥地を三カ月程幾つかの村を通り抜けて歩き続けた時のことですが、途中いやな臭気が鼻をつくともなく部落に入り、部落を出るとしばらくは臭い場所があることを知つたことがあります。最近ネパール人の子マヤチ

ヤンを育てて有名になつた岩村昇先生と初めて会つたのは、カトマンズの私の家でしたが、その時、公衆衛生学専門の先生と糞尿処理の問題について話し合ひましたが、糞溜を造ると何日までもヘエの発生源となる嫌われたとのこと、矢張り現状の方が強い紫外線によつて殺菌できるから衛生上いいとのことでした。しかしアメーバ赤痢による血便を見たり、犬や山羊や鶏などの家畜が、これらの排泄物を喰べたりしているのを見ると素直に頷けません。ネパールでは牛は神様として崇められているから少々悪いことをしても叱られないし、バザールで売物の野菜を食べて市の到る所かまわず排泄するが、これは燃料にするため直ぐ拾われ、よく練られてから大きな団子とし、これを塀や壁に煎餅状に張りつけて乾燥させてから燃料とします。北部の砂漠地帯では交易で往き通う羊群の排泄した黒い小塊を拾ひ集めている女がいたし、これを燃やして食事を作つているのを見て、輪廻の廻り会わせといふことをふと思ひ浮べたことでした。与えられた題名がとんだ糞尿談になつて原稿紙も終りとなつてしまつたので攔筆します。

## 〈業界人としての私〉

(その二)  
大木 卓

扱て業界人としての私を書くにしても、私の経歴などいふものは極めて単純なものである。即ち江戸時代から三百年続いたクスリ屋の総領に生れたがために家業に従事、大木家十二代目の当主というに過ぎず、長男故に早く父を助けねばならぬという責任感から東京府立第一中学校を卒業後直ちに千葉の薬学科に学び、目的通りに薬剤師の免状を獲得、一年志願兵として近衛三聯隊に入隊、除隊して大木合名会社の副社長から現在大木製薬株式会社の取締役会長になつたのである。但しその間、青島における日独戦争、関東大震災、大東亜戦争等、国民としての困難事に遭遇し一応の苦勞をなめた事は、ご他聞に漏れぬ。その間に処して、業界人としての経験も一と通りはして来た事になる。

をお許し願ひたい。  
△子供の頃  
大木家の先祖は初代大木口哲以来代々口哲を襲名し、私の祖父十代目大木口哲に到るまで江戸の両国、後の東京日本橋の米沢町に居住して大木口哲本店を営んだ。大木五臓円の本舗として小売店であつたわけだが、この頃の両国広小路は江戸の中心で一番の繁華街であつたという。千葉方面から得意先の人々が両国橋を渡つて五臓円を買いに来られたついでに、当時の宝丹、実母散、精綺水等を取寄せてくれと頼まれて、取次ぎ販売をした事が卸業としての始まりであつたとの事だから、大木の店が東都における卸業の先駆であつた事になる。この卸部門が発展して後に神田から町の大木合名会社の創立となつた事などいろいろ書きたい事も出て来るが、ここではこれも又省略する。

父は店員に伍して小売店頭の仕事に従事した事や、わが国としては最初の写真部を設置した事など私としても知つていた。私は勿論子供であつたから詳しい事は知らなかつたがこんなわけで本籍が日本橋であつたので後には神田に移つていたにもかかわらず当時の有名校常磐小学校へ

通うことが出来たのである。

(以下次号)

(筆者は大木製薬会長)

## 薬業人としての

## 反省

株式会社 竜角散

社長 藤井 康男

ここ数年の薬業界は色々な意味で荒れに荒れた。薬禍の問題に端を發し戦後の無反省な過度成長に酔いしれてきた薬業界もいよいよ再編成されそうな形勢が見えてきたようである。流通問題、薬の品位の問題、製薬企業の体質の問題等、時限爆弾があつちこつちにごろごろしている感じである。何か問題が起るたんびにその責任の所在が云々され厚生省、メーカー、流通業者、薬局、さらには薬学関係者、広告代理店、媒体などの中で責任の押しつけ合いとたらいまわしの議論は尽きることがない。しかし年間四千五百億の過熱市場をつくり上げ薬の品位をおとし、一般大衆に間違つた薬の概念を植えつ

け、必要以上に薬がもうかるものであるとの印象を抱かせたことはよく考えてみれば薬業人全体の責任である筈だ。今後の混乱に処していくためにその対策に苦勞しなければならぬのは当然であるがこの際思い切

つて原点に一度もどき「薬業」という重要な産業の本来あるべき理想的な姿を我々はメーカーとして又歴史ある家庭薬の業者として史的に又現実の社会の要求の面から更には将来あるべき正しい姿を追求するべきではないだろうか。いたずらに理屈をひねくつたり正論をただふりまわすためではなく、やはり社会全般の要求に従つて成立し支えられる「聖薬」であるだけに薬業の発展はむりのない常に大衆に支持される形のものでなければ永続的な企業の収益性も確保出来ないということがだんだんはつきりしてきたからなのである。他の業種に対するより法的保護も規制も強いということは一旦道をふみはずしたものに對し社会的制裁が自然のうちの下されるようになる筈である。それが文明というものの一つの本質であろう。おことわりしておくが別に私はごりつばな事を言おうとしているのではない。薬業というものがごりつばでなければもうからな

くなる時代がすぐそこ迄きているという事を申し上げたいだけなのである。

○薬は現在どういう風に使われているか。――

テレビのコマーシャルのとおりに忠実に薬を「愛好」する人があつたとする(事実こんな人はたくさんいる)、つかれたといつてドリンク一本、気分がすぐれぬといつて頭痛薬、トランキライザー、風邪らしい、それ抗生物質、遊びつかれた、それ精力剤、毎日ビタミン剤飲んでますか。色が白くなりたい、それCだ。これでは体がたまらない。それよりも薬のききめ自体がまぜこぜになつてど

れが効いたのかどれとどれが一緒になつて害をなすのかまかつたくわからなくなつてしまふ。第一こんな使い方では薬の効果もありがた味も自覚されずに次々と忘れ去られてしまふ。薬品のライフサイクルが流行商品なみにどんどん短かくなつていくのは案外こんなところに原因があるのではないだろうか。つくづく考えるに良い薬品というものは医家向、大衆薬の如何を問はず必要な時には他の何にも増して要求されるが必要でない時には無価値に等しいという非常に特別な性質を持つ商品である

ようだ。過去において一般商品なみのマーケティングに成功したがため、かえつて自らの寿命をちぢめてしまつた薬は多い。

よほど特殊なものでない限り薬の眞の値うちが社会全般にみとめられるには相当な期間を要するのが本当である。千人の人間がその薬の値打ちを知るにはその千人がひと通り病氣にかかりその薬を服用することによつて評価を下してくれる間は待たねばならぬ理屈になる。その間地道に宣伝をつづけ一度のチャンスに必らずその製品を思い出させる事が氣のながいようだがメーカーの正攻法である。それをただやたらに宣伝する事で急激に売り上げをのぼそうとするものだから表現も極端に誇大になるし従つて大して必要でない人が必要でない時にのんでそれつきり忘れてしまふ本當のTPOの最初のチャンスを自分でつぶす結果になつてゐる。宣伝のやりすぎは製品の短命化をまねくといふことは薬については法則に近い程はつきりしている。

もつといけないことは各メーカーこそつての氣の狂つたような宣伝は長い眼でみると大衆の薬に関する良識を狂わせてしまふことである。

「家庭薬」といふことばの定義はい

つ問題になるがいまだにはつきりとしたものがない。しかし一応次の様に考えられる。「大衆医薬品に含まれるものであって薬について何の知識もない素人が医師の指示によらず一時的又長期的に使用しても何等の不都合のおこらない薬」、まだいろいろな表現はあると思う。しかしこの表現を厳密に解釈してゆくと、いま一般の人々が入られる薬の中でこの資格を十分に満たすものは非常に少なくなってしまう。極論すればいわゆる我々が家庭薬とみとめる薬それも社会的に何十年かの使用実績を有するものだけになってしまう。発売間もなくとも、新薬メーカーから出されたものでも「家庭薬」らしきものはたくさんあるがそのものが真に家庭薬の資格を有するかどうかわかるまでにはもう少し時間が必要なのである。少し売れゆきが悪く思わないとすぐ処方を変えたり目先の変った宣伝をしたりするメーカーは家庭薬を「完成」する資格がないとも言えるのではないだろうか。

製薬の条件(特に家庭薬について)

- 1、強力な単品メーカーであれば、
- 2、歴史が長く製品の寿命も長い。
- 3、企業内容に余裕があること。

- 4、全国的に一般の支持をうけていること。
- 5、薬に関し考え方が保守的であること。

次に弱点をあげてみよう。

- 1、単品にたよりすぎること。
- 2、技術開発力が弱いこと。
- 3、経営形態が古典的であること。
- 4、経営者も含めて人材の育成力がないこと。
- 5、視野が狭く積極性に欠けること

よく考えてみると強味においては圧倒的で弱点はとるに足らずごく一般的にどんな企業でも中小企業ならば持っている悩みである。(この点に関しては拙稿「中小企業の有利性を活かそう」経営者会報十月号59頁日本実業出版社を御参照下されば幸いである) 四千五百億の薬の市場の55%が医家向であれば残りの二千二十五億はそのまま家庭薬に用意された市場とも言えるだろう。もちろん現在のところこの二千億以上の薬の市場は過大であり過熱しており内容はまことにおそまつである。しかし仮にその半分迄縮少していくとしても消えてゆくのはむりにつくり出した疑似薬品、疑似栄養剤の分であり必要なものは残るにきまつている。

この稿のはじめに述べたように薬

の現状はまさに目茶苦茶にみだれている。誰がその様な混乱を起したかは問はないとして歴史的に見て混乱というものは必ずおさまるのであり、どの様な形で正常化するのかわり、今から見きわめた者だけが生き残ることになろう。戦後二十年の間苦境に立たされた家庭薬が一貫した方針でしかもさきに列挙した特長を失わずむしろ逆に時代にさからってまで耐えぬいたことが今まさに正しかったことが証明されようとしている。

今後の競争は弱点としてあげた項目の中であらそわれるに違いない。ただし家庭薬として生きぬくには弱点五項目の強化をねがうあまり五大特長を失ってしまったては逆に総合的に弱体化してしまう。そこいらが大変にむづかしいところではないだろうか。単に問題の提起や観念論ばかりでまことに申しわけないが最後に一つだけはつきりさせておきたいのは今後我々は如何に進むべきかという問題である。家庭薬業界が周辺からの攻撃に耐えぬき今日の混乱の中でいぜん強力であるのは多くの先輩方の非常な御努力であることに間違いないが、それを引きつぎ次の時代の発展を協力してつくり出す責任をまかされる方々は全々別の苦労

をしなければならぬことになるだろう。防御の戦いはむづかしいが結束しやすい。何十年かに一度の攻撃のチャンスが来ようとしている。いま心ある次の世代の方々と攻撃チームを組む必要を痛感している。「家庭薬」は今こそ使命を自覚すべき時にきている。慎重な攻撃こそは業界の強い結束なしには成功しない。諸賢の御明察を切望する気持は切なるものがある。

### 初冬雑詠

友田俳句グループ

石井 夫静

哀歎を友と語りつ落葉踏む

湯豆腐の白さが匂う妻は亡き

部屋貸して小さく住まい蜜柑むく

高橋 花泉

枯れ残る生命尊し冬構え

雲往くと思ふや遙か冬の雷

冬灯下質素な卓に一家族

下島皓二朗

味噌おでん由緒ありげな皿小鉢

ストープを囲めば若き声となる

短日や夕刊売りの手の捌き

友田俳句グループの生い立ち

昭和二十二年社内同好者をもって

発足現在友田製薬三友会教養部に属

し、会員十三名



## 人物回想 ②

武田 猛

日本医薬療品輸出組合専務理事

## 大木良輔氏

大木良輔氏を回想するといっても私はただ故人の横顔のほんの一面だけを知るのみであつてその認識や記憶に誤りも多いと思うので失礼に亘る点については御容赦を乞ふこととしたい。

日支事変が勃発した昭和十二年前後の国内は全般的に不況の時代でありわが家庭薬業界も濫売が蔓延しその対策に忙がしいときであつた。当時東京の家庭薬卸業界には友親会という強力な組織体があり、大木、玉置、中田、福井という四大問屋で組織されたもので問屋の実力を結集した会として隠然たる勢力をもっていた。この友親会の総師は大木良輔さんだつたと思う、濫売対策の推進には卸問屋の協力が絶対に必要であり従つて友親会の実力者である大木さんに対しては業界から特に大きな関

心と期待がよせられたことは当然であつたと云えよう。  
大木さんは政治性に富む紳商として令名のあつた方である。

堀内会長の任期満了に伴つてその後任に推す会長の人選が話題になつた。当時組合が主要事業として推進していた濫売対策は一向にその効果があがらず内外からきびしい批判を浴びていたときであるから組合代表者に就任することは誰も嫌がり敬遠されるという状態であつた。それまではどちらかといえば表面に立たず舞台裏の実力者として業界の動向を注視していた大木さんがこのとき初めて舞台上に現われて会長の人選に参画し容喙されることになつた、業界全般の考へとしては会長はメーカーから選出すべきであり且つ業界の内力は勿論外部に対しても睨みのきく実力者をとつて、構想によつて、選ばれたのが先代津村重舎氏だつた。

津村さんはその前年まで多額納税



大木良輔氏

議員として貴族院に議席を有しておられたが昭和十一年五月の第六十九回帝国議会で国軍将校の忠誠心に関し自己の信念を貫ぬいた痛快な批判的発言をされたことが原因で当時の軍部の激しい反感を買い自分から潔く議員を辞任しておられた。この方に会長を御願ひするという事に業界の議がまとまり総意による懇請によつてその実現をみたのである。

然しこの津村会長就任には条件がついていた、すなわち大木良輔さんを相談役とし会長の職務はすべて相談役に代行して貰うということだつた。これは津村さんの自発的な御意向に基づいたものか或は津村さんが煩はしい困難な会長の就任を容易に引受けて貰えないために交渉役であつた大木さんが会長の仕事は自分が引受け御迷惑はかけないからということであつた。この交渉経過は知る由もない、が然しこうした辺りに大木さんの政治性と老巧な配慮があつたように思うのである。

会長代行として組合の濫売対策の業務を総理されるに當つては濫売業者側の実情を知ることが必要であるとしてその情報の入手ということにも極めて熱心だつた。当時大木さんがその情報提供者として高く評価し

信頼した人は富田健治さん(現日業新聞社主)であつた、富田さんはその頃まだ齡不惑を出でぬ年配で今日と変らぬ珍らしい活動家であり濫売業界の事情にも精通した人であつた、この人の情報と進言をよく採り入れてむづかしい濫売対策に取組み一部からとかくの批判もあつたが敢然と自己の信念に徹し持前の政治性を發揮し熱意をもつて業界のために尽瘁努力された功績については今日では余り知る人も尠ないであらう。

大木さんの御人柄は極めて正直でどちらかと云へば気の小さい方であつたと思う。他人の言や意見をよく聴き納得のゆくまで究明し物事をいい加減にするというふうなことで大きな性格の方であつた。万事に行届いた人で儀礼にも正しい御方であつた、私が日支事変の出征から帰還し戦捷の挨拶に伺つたところ大変によろこんで下さり直ちに当時の栗原支配人に命じて浜町の料亭で一夕慰勞の宴を設けていただいた。その席で白扇の上に金一封の慰斗袋をのせて差出され丁重なねぎらいの言葉が述べられたときの恐縮と感激は今もつて忘れ得ない。

(カット・玉置弘三氏)

☆☆☆☆☆☆

## 薬局さん訪問 ①

☆☆☆☆☆☆

弘報委員会の企画で薬局さんの声を収録するため某日、堀内委員長から借りたデンスケを肩に「一日記者」を相つとめることとなった。

まづご近所のお店からというところで……というより、このにわか記者の毎日通勤する途中にこのお店がたまたま在ったということ、それから「こんなところに変なデキモノがデキちゃって」といつぞやオデキをこじらせ、お医者さんに行けば必ずメスを出されるに違いないので、その薬局さんに相談すると、まことに感じよき応対を以て新薬類の居並ぶガラスケースの上に乗せてくれたのが、われらが家庭薬の銘品たこの吸出し膏であったこと、それからまたまに風邪薬など通勤ついでに買いに寄るお店であったこと、それから実は、まことに感じよき女性薬剤師がいつも応対してくれること……こんな次第で今日の訪問の第一歩は墨田区地下鉄「本所吾妻橋」の近く第一薬局さんに足が向いてしまった。本田保子さんがいつもの通りにこやか

に迎えてくれた。

「お店では家庭薬を何パーセントくらい置いて頂いてますか」

「だいたい十五パーセントくらいかしら、指名の多いものがほとんどですけれどね」というスタート。

「家庭薬ではどんなものが多く売れますか」

「うちでは(と断って)やつぱり昔からのお薬で、今でもよく宣伝の行きとどいたもの」

「たとえば？」

「たとえば……いいんですか、申し上げて？」

「いや、わかりました。ところで、ふだん家庭薬だの新薬だの意識してらっしゃいますか」

「そう、あまり私などは意識してないです」

「お客さんは？」

「お客さまはほとんど区別してらっしゃらないんじゃないかしら、ただ何となく昔からあるお薬、比較的に近ごろのお薬という程度じゃないかと思えます」

「なるほど」

「ただ私どもから見ると家庭薬の方が一つのものをつけてお求めになる方が多いようですね。あれこれと他のものに迷わず」

「では次に、家庭薬メーカーの宣伝はいかがでしょう？ テレビ・新聞などの」

「新薬メーカーとあまり遜色ないと思いますけど、私申しわけないんですけどあまりテレビ見ない方なんですの、でもお客さまはよく宣伝をごらんになってますね」

「そうすると宣伝の反響などというものは、すぐ指名となって表われるわけですか」

「そんなに強くはありませんが、さかんにやってるなと思うと、二、三の反響はすぐあるようですね……出来ればメーカーさんから、今、こんな宣伝をやつてるといようなことを私どもにPRして頂けるといと思うことがありますよ、私なんか、とくに」

「ところで家庭薬のA価なんです少し安すぎるとお思いになりませんか？」

「安いものも高いものもいろいろですけど、百円以下というのは困りますね」

「では、いよいよ面どうな問題に移りますが、私どもメーカーといたしまして、国民の保健を担う「薬」という商品の特殊性からも現在の価格の乱れをたいへん困ったことだと

思い、あれこれ思案をしている次第ですが……」

「そうですね、メーカーさんも制度品の再販契約だのと御苦心なさってますけど、私も小売側全体にも責任があると思えますわね。お客さまも今日ではお薬も他の商品なみに定価以下で買えるものだという観念が出来てしまってますし。……ただ制度品といつても何所のお店でもすべてが契約通りの数がハケるとは限りませんでしようし、残ったものはやがて横流しという価格維持と逆の方向へずれて行かされつちまうんじゃないでしょうか」

「では最後に一言おうかがいしたいんです……先ほど家庭薬はお店の十五パーセントというお話でしたが、これをもっとパーセントを上げて頂くには、ずばり言つて何を望まれますか」

「……月並みになりますけど、やっぱり良心的な立派なお薬をお出しになることですね。それから宣伝。商売的なことで申し上げれば新薬が大体七掛でそれに増しもありますし……六掛くらいにして頂くと助かりますわね」

「では、どうぞこれから家庭薬をご支援を下さいますよう」(湯浅)



## 〈委員会から〉

### 総務委員会

―組合土地建物売却経過について―  
御承知の通り本組合建物は戦前の建築によるもので老朽度がひどく、再三補修を施して参りましたが、すでに耐用も限度となり施策皆無の実情にありました。斯かる上に立地条件も悪く業務連絡上の支障が多いという不都合から昭和四十年七月の理事会に於いて全員一致を以て売却する方針を決定致したものであります。爾來、理事会によって指名された正副理事長、正副総務委員長が日清商事株式会社に対して売却の交渉に当って参りましたが価格の点で不成立に終り今日まで日時を経過して参りました。さらにその間の経緯を述べますと、昭和四十年十一月に全国銀行筋に対して売却案内を致しましたが不況時勢と相俟って一件の引

合いも無く終りました。次いで昭和四十一年二月七日に日清商事株式会社と再度交渉を重ねましたが前回同様価格の点で折合わないので暫らく静観の態度をとって参りましたが一向に情勢が好転する様子も有りませんので、五月十三日の理事会に於いて日清商事株式会社との売却交渉を打切ることに決定し、爾後の方針を建物の再建に切換へましたので直ちに不燃住宅公社に再建の計画設計書の作成を依頼致しました。

七月八日計画設計書が完成、その建築規模は地下一階、地上五階、建築費概算五、六一六万円であり、資金調達は不燃住宅公社より建築費の約半額の二、七五二万円、残額二、八六五万円は商工中金より融資を受けるか又は組合債によるものと決定致しました。次いで八月十二日商工中金の係員の来訪を求め融資問題について懇談の結果、予備審査にかけた上で具体的報告を受けることとなりました。

このようにして再建問題が具体化してきた頃、それまで打切りになっていた日清商事株式会社より譲受希望の件が再燃して参りましたのでこれを八月九日の理事会に諮りましたところ全員売却に賛成でありこの交

渉に再び正副理事長及び正副総務委員長が一任されましたので日清商事株式会社と再三に亘り折衝を重ねた結果、坪当り五十万円を以て売買が成立致しました。次いで九月二十日の臨時理事会に於いて売却決定価格を報告、売却後の対策について種々意見の交換、調整を行った結果、細部に亘っては正副総務委員長が引続き検討推進することに一任されました。

以上が組合建物売却の経過の概要でありまして、今後は新事務所は組合員及び外部との連絡をいやが上にも機能的に果し得る立地条件のよい場所に設けて組合の発展を期すべく努力を共にして参りたいと存じて居りますので宜敷く御協力の程お願い申し上げます。  
(坂本藤四郎)

### 販売対策委員会

再販の問題については前号で皆様の注意を喚起し研究をお願いしておきましたのでそれぞれに進めて頂いている事と思いますが、その後公正取引委員会では綿密な調査を進めている段階であつてそれ以外あまり目立った変化は無い様です。

それは免も角として物価に対する佐藤内閣の考え方は皮相的すぎる様に思えてなりません。先日醤油の中小メーカーが原料の値上がりで苦しんで醤油の値上げを申請した処、値上げは困るから何とか原料の価格をおさえようと云う事になったそうですが、目につく物の価格を押える事が物価対策と考え違いしているのではないかと気になります。又菓の価格を論ずる場合など家庭菓の様に戦前からある商品と新しく開発されて勝手に(?)高い定価をつけた商品との区別すらわきまえていない様に思えるのは心外です。企業の生命をかけて販売している中小企業の存立に重要な関係のある発言をする場合はしっかり研究してやって貰いたいものです。われわれが予測をあまり高すぎた価格をつけた為めに売れなくなったり、安すぎる価格の為、採算が悪化して企業がつまづいても何処かの大証券会社の様に救済しては貰えないのですからこそ心のかよった、そして責任のある発言をして貰いたいと思います。佐藤首相が衆議院の或る委員会で「菓の値下げをさせます」等と発言したと聞きましたがみそもくそも一緒にした暴言……いや無智から来る失言かも知

れません……と云わざるを得ないでしよう。この発言の余波に対しては全国家庭薬協会で対策をたてておられると聞いていますので健闘、善処を期待しましょう。

各地で乱売が悪質化しています。目玉商品にすると云う事自体違法です。大いに発言をしましょう。自らを守るのはわれわれ自身であると云う事を改めて認識す可きと思いません。(津村重孝)

### 広告委員会

八月十六日より開催されたアジア薬学大会は三日間の日程を有意義の裡に終了した。同大会には当組合理事長津村重孝氏の講演を始め、組合役員会社より同大会への寄金、組合有志会社の展示会場への出品等、東南アジア諸国に対する我国大衆向医薬品の啓蒙運動の一助となった事は喜ばしい。展示会場へ出品された各会社の製品は二十品目であり、それ等の殆どは東南アジア諸国に現在盛んに輸出されているものである。展示形式は三枠をぶちぬいた組合統轄展示で、生薬をモチーフしてデザインされた背景は一きわ目をひくものがあった。今後もこのような機会に

は各会社の積極的御参加を切望するものである。

最近のテレビ、新聞の広告料の高低事は驚くばかりである。例えばテレビ中央局のAタイム15秒スポット正規料金が一本二〇万円であり、中央紙の全国通し一段月極料金が一回六〇万円なのでもお分りであろう。我々大衆向医薬品メーカーの広告に

対する考え方は誠に真剣なものがあり、自己の製品を如何に正しく大衆に認識して貰うか、如何に多くの人にその利用価値を認めて貰うかという事なのである。現代広告の理論が、広告主の利益と消費者の利益両方を満足させるものであるならば、需給バランスのしからしむる所とは云え、テレビ、新聞の唯我独尊的な高額広告料金は果して許されるべきで

あろうか。政府の物価問題懇談会で媒体広告料の高騰を不問にして、値上り指数の遙かに低い医薬品を云々するとは、全くナンセンスといわねばならないだろう。(太田昭)

### 厚生委員会

組合事務所の移転問題も目度く落着きまして、近々新事務所にて運営する事になりましたのも、理事長初め理事各位の誠心溢れる御尽力の賜と心から慶祝申し上げます。

この機会に心気一転して、新しい門出を祝福する意味を込めて、組合員相互の懇親を兼ねささやかな祝賀パーティの開催等いかかかと存じます。

委員会も毎月第二火曜日に集合しまして、厚生委員会の事業目的達成の為の意見が種々出て居ります。

現在TKGCゴルフ会を隔月実施中で、会を重ねる毎に会員相互の親交が一層深まり、出席会員も多くなり最近是最も楽しい会となって居ります。

十月一日現在会員数三〇名で御座居ますが、ゴルフ愛好者でまだ会員になって居られない方は、是非この際お申込み頂きたいと存じます。

左記に前回の成績を発表します。

第八回 九月二十一日

磯子カンツリークラブ

優勝 津村 昭

一等 河合 友彦

二等 山崎 寅

三等 秋山 義郎

B B 堀 正己

(山崎栄二)

### 労務委員会

昨年九月に労務委員会を設置して以来満一年を迎えました。

発足に当り第一回労務委員会を開催し、どの様に運営すべきかの検討がなされ取敢えず会員各社にお集り頂き経営労務問題についてどの様な問題を抱え且つどの様な委員会への希望があるかについての意向を聴取する必要ありとして、各社の経営的立場にある労務担当者に御出席を願ひ、労務委員会としての今後の運営について次のような事項をお決め頂きました。

(一) 労務委員会としての目的として

会員会社が必要とする労務に関する調査、研究並びに技術研鑽について援助サービスを行う。

(二) 労務委員会の事業として

イ、経営における労務に関する諸制度の研究。

ロ、賃金、賞与に関する実態調査並びに定期的資料作成。

ハ、労使関係に関する動向等の研究

ニ、労務管理の全般的実態調査及び資料作成。

ホ、労務の諸事項に関する研究会講習会、講演会の開催又は参加

これら事業を行うに当り、会員会社六十数社に対し先ず労務構成の実態把握をしました処四十社に近いご提出を得ました。今後の情報交換に便ならしめるため企業規模構成による区分をなし、コードNo.を設定致し資料の重要性と分類方法に役立たせております。これ迄資料による情報交換も回を重ねてきておりますが、

労務委員会としては、いささかでも皆様のお役に立つ事のできます事

思いを致すこととは逆に、各社の諸事情もあるかと思われませんが、御提出頂く会員会社が漸次通減致す方向にあります。そこで本年度事業計画においては、単に資料による情報交換のみならず、定期的(毎月一回)に会合を持ち直接お会いして問題解決の促進と、コミュニケーションを計るべく労務委員会の下部組織とし

て各社の労務担当者による「労務連絡会」を設置する事に致したのであります。

更に経営労務問題について外部講師による担当者の研鑽を計る観点から最初ではあります十月十一日(火)東京都労働委員会委員(公益代表)吉田要三氏による「企業の経営、労務について」と云うテーマにより講演会を東京薬業会館に於て開催する事に致しました。今後、この様な催しを積極的に行い、近時益々経営労務問題については、厳しさを要求される時代を迎えるに当り、労務委員会は、家庭薬工の前向な発展への一助として果し得る事をせつに願うものであります。(歌橋一典)

### 弘報委員会

この八かいていやくも、とにかく四号を発行することになり、とにかく一つの軌道に乗せることが出来ました。そして一つのタイプを形成しかかっていきます。ひとえに皆さんの御協力のおかげです。

われわれ弘報委員も夫々の個性の活し方で力を集め合って来ました。

まだまだ、あそこをこうしたい、ここをああしたいと月に一度は必ず

首をそろえて頭をひねっています。号を追って充実して来たことは確かだと思えます。

また理事会の承認を得て部数を増し、問屋さん、業界紙等にも拡めることが出来たことは弘報活動の一步前進と考えています。

わが家庭薬も近頃、宣伝の面にも売上げの面にも活気を生じて来たことが各方面から指摘されることが多くなりました。まことに愉快です。

テレビを見ていて、われわれの仲間のコマーションに会うたび(ああやつてるナ)とたいへん頼もしく、永い間の殻を破って躍動を始めたものの、関の声があちこちから聞える思いです。

従って組合活動もいよいよ積極活動になり、われわれの弘報活動も拍車をかけられることになりました。どうも今まで弘報委員会は八かいていやく編集にのみ追い廻されその他の仕事に手がつけられなまま来てましたが、ここいらで何かやらなければならなくなりました。一生懸命やります。(湯浅富夫)

### 各業界界だより

東京薬友会主催による第十六回軟

式卓球大会を昭和四十一年十月二日午前九時より東京理科大学薬学部講堂に於て開催致しました。参加チームはAチーム(九チーム)Bチーム(十四チーム)がグループ別に熱戦の火蓋を切り接戦に次ぐ接戦の末下記の成績により午後三時三十分試合終了。直ちに受賞チームの表彰式を行い盛会裡に散会致しました。

- Aチーム 優勝 大田胃散 A 準優勝 エスエス A
- 三位 わかもと
- Bチーム 優勝 久光 準優勝 丹平
- 三位 養命酒 C

### 事務局メモ

六月十日熱海桃李境に於て東京都家庭薬工業協同組合懇親会を開催した。当日は役員各委員組合員二十七名が参加し午後三時より六時まで同好の士による懇親囲碁大会、懇親麻雀大会を開催した。優勝は囲碁大会は友田銈三郎氏、麻雀大会は太田昭氏であった。引続き午後六時より懇親会に移り盛会裡に午後九時終会となった。

翌日朝食後之も同好の士による懇親ゴルフ大会が盛大に開催された。

六月十日の理事会にて、友田製薬株式会社友田真二氏が弘報委員と労務委員の兼任を委嘱された。

× ×  
 八月十五日より八月十九日まで開催された第一回アジア薬学大会に当組合としては家庭薬の展示に参加し一七社、一八品目を出品展示した。

☆荣誉に輝く人々

勲四等旭日小綬章(三月)

内藤豊次氏 〓 エーザイ会長

同 (十一月)

堀 正由氏 〓 救心製薬会長

藍綬褒章 (十一月)

大木 卓氏 〓 大木製薬会長

薬事功労者厚生大臣表彰(十一月)

坂本藤四郎氏 〓 東京不二製薬社長

長

玉置源一郎氏 〓 玉置製薬代表取締役

縮役

保健衛生関係事業功労者

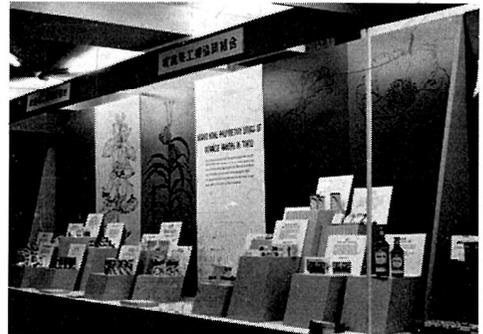
田中敏明氏 〓 東京甲子社々長

薬事関係功労者都知事褒賞

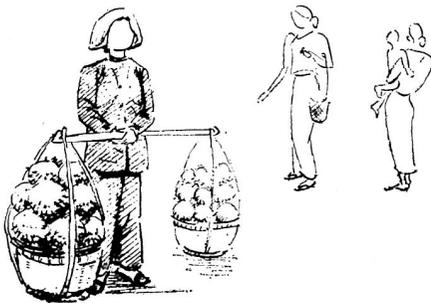
湧井一雄氏 〓 大木製薬社長

石原 量氏 〓 石原薬品工業代表取締役

取縮役



アジア薬学大会に於ける家庭薬展示



〈安南スケッチ〉堀 泰助氏

組合員変更通知

会社名 救心製薬株式会社

新住所 杉並区和田一丁目二一

番七号

旧住所 杉並区和田本町一四番

地

会社名 大木製薬株式会社

新事務所 千代田区神田鍛冶町三

丁目三番地(大木ビル

三階)

(生産部、企画部、企

画課、事務課、資材課、

宣伝課、販売課、学術

課、特約課)

旧事務所 文京区音羽二丁目十五

番地

会社名 (株)千葉三郎次商店

仮事務所 東京都世田ヶ谷区赤堤

一丁目五番五号

会社名 河合製薬株式会社

新住所 中野区新井町二丁目五

十番六号

旧住所 中野区野方町二丁目一

一七一番地

会社名 セイセイ薬品工業株式

会社

新住所 中央区日本橋芳町二丁

目四番地

旧住所 中央区日本橋茅場町一

丁目一八番地

会社名 イチジク製薬株式会社

新住所 墨田区東駒形四丁目十

六番六号

旧住所 墨田区東駒形四丁目九

番地

後記

この号は「海外視察特集」ということにしました。たいへん貴重な或は肩のこらない玉稿を頂きました。特集の関係で次号に送らせて頂いた原稿も数篇ありましたがすべて力のもったいない原稿ですから来号をお楽しみ下さい。

また今度はいつともより原稿の集りもよく、量にも恵まれましたから順次遅れをとり戻せると思っております。(ゆ)

東京都家庭薬工業協同組合報

かていやく 第四号

昭和四十一年十一月十五日発行

編集・印刷・発行

東京都家庭薬工業協同組合

東京都中央区新川一丁目八番地

電話築地(五五一)四六一七